

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071000428		
法人名	社会福祉法人 桜花会		
事業所名	ライフケア大手門	ユニット名	
所在地	福岡県福岡市中央区大手門2丁目5番15号		
自己評価作成日	平成27年10月10日	評価結果市町村受理日	平成27年12月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成27年10月26日	評価確定日	平成27年11月14日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

福岡市の中心部にある複合施設の最上階にあり、見晴らしも良く、夏には大濠花火大会の見物もすることが出来ます。他事業所との合同行事(どんたく祭りや運動会、秋祭り等)、ホーム内での四季折々の催し等で交流を図りながらメリハリのある生活を送って頂いています。今年度より職員の体制を7名から6.5名に変更させて頂きましたが、入居者様にご迷惑をお掛けすることがないよう、業務内容の見直しにつきましてはその都度スタッフ間で協議を行いながら改善に繋げています。入居者様が発せられる日々の言葉を記録に残し、分析を行いながらその後のケアに活かしています。ご家族へも1ヶ月の御様子をお手紙でお伝えし、日頃より情報の共有を図っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“ライフケア大手門”は開設から15年目を迎える。6階建ての建物には特養等の施設があり、法人全体で連携を図り、施設長が中心になって職員全員のレベルアップに取り組まれている。理念にある「④地域・世代間の交流拠点となり、地域高齢者がいつでも気軽に利用できる開かれた施設創りに努める」を日々実践し、法人全体で地域交流に努めている。開設から15年が経過し、27年7月には法人内の全職員に「環境面のアンケート」が行われた。職員個々の要望を精査し、優先順位を付けながら環境改善に取り組まれている。ホームでは主任とリーダーを中心に良きチームが作られ、27年4月から勤務時間を含む人員体制の変更が行われた。職員の意見を聞きながら、更なる業務改善を続けており、今後も更に、ご利用者の有する能力を引き出し、介護計画の短期目標を具体化すると共に、医療知識の向上とリハビリの視点を深める取り組みを行う予定にしている。

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の唱和は朝礼時に行っている。スタッフルームにも掲示し、共有を図っている。カンファレンス等で理解を深めながら実践に繋げている。	法人全体で同じ理念を掲げている。職員の離職もなく、チームワークも良くなっており、カンファレンスの中で、理念にある「全人的運営」の意味などを共有している。ホーム独自で「月間目標」も決めており、日々のケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の開催の呼びかけや、施設内の交流スペースを利用した地域の方との交流、地域活動への入居者の参加を通じて交流を深めている。	系列施設に保育園児等が来られ、ホームにも押し花ボランティアの方が来て下さり、ご利用者も一緒に交流している。地域ふれあいサロンでフラワーアレンジメント等を楽しまれたり、校区の夏祭りや保育園の運動会に参加しているが、体力的に参加者が減っており、施設内での交流も検討されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて勉強会を行ったり、圏域連携会議にて報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況やサービス内容等を報告し、意見交換を行いながらサービスの向上に努めている。	ホームや地域の取り組み内容の情報交換が行われ、権利擁護等の勉強の機会も作られている。独居の方が多い地域でもあり、集いの場を含めた地域包括ケアに向けた検討を行うと共に、ボランティアの方も増やしたいと考えており、地域の代表の方々への更なる参加依頼をお願いしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には職員の方が参加されホームの状況を報告している。地域包括の方が地域高齢者の抱える課題等についても報告して下さっている。	認定の更新時などは事務の方が市役所に出向いており、不明点があれば相談できる関係はできている。ふれあい相談員の派遣もあり、運営推進会議にも参加して下さっている。地域包括の方が権利擁護の講師をして下さり、地域の実情等の情報交換も続けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については内部研修を行い、スピーチロックを含めた拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人全体で身体拘束を禁止している。ご本人の思いに寄り添うケアを続けており、帰宅願望等の想いには家族も訪問し、協力して下さっている。構造上、エレベーターは暗証番号を押して開けるシステムで、1階のラウンジや散歩等の希望がある場合は職員が付き添い、エレベーター操作をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は利用されている入居者様もいらっしゃる為、カンファレンスや研修において学ぶ機会を設けている。ご家族へも会議や掲示物で制度の紹介を行っている。	運営推進会議の時に、地域包括の方から制度の説明をして頂いた。DVDを見る機会も作られ、欠席者には議事録の郵送が行われた。ホーム内にパンフレットを準備し、契約時に説明しており、ご利用者個々の制度の必要性の検討は主任が行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約等の問題以外でも出来るだけ相談の機会を設け、説明を行い、理解と納得をして頂けるよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご面会時等に御意見を伺っている。年2回の家族会を設け、御要望を伺い、出来るだけ運営に反映するよう努めている。	家族の方々に参加して頂ける行事を企画し、お誘いしている。日々の面会時と共に、手紙や電話等で情報をお伝えし、共に支えていく関係を築いている。敬老会と忘年会の後に家族会を行い、日々の感想等を話して頂いている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長、主任、リーダーとの面談の機会を設け、カンファレンスにおいても出来るだけ個々の意見が出せるような体制をとっている。	法人全体でケアの質の向上に努めている。職員体制の見直しも適宜行われ、27年春に勤務シフトの変更もあり、職員の体調やストレス、疲労などの確認も続けている。日々の余暇活動の充実も図られ、レクの内容や壁面飾り等のアイデアも増えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、その後に面談を行う等、各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集、採用にあたっては制限は設けておらず第一印象を大切にしている。職員についても希望休を聞いたり、プライベートの目標を立て実践する等配慮している。	施設長と部長、主任などで面接をしており、資格の有無に問わず、応募者の笑顔や話し方等を大切にしている。職員は年2回以上の外部研修に参加し、プライベートの目標も立て、日々の実践に繋げている。資格取得の意欲も高く、要望に応じて勤務シフトの調整をしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎年の内部研修に組み入れ学習や啓発の機会を確保している。外部研修でも他施設職員との交流により理解を深めている。	施設長は、「ご利用者の1日1日を大切に」「高齢者の生き方から学ぶ」「職員個々に成長して欲しい」等を職員に伝えている。日々のケアでは主任やリーダーが中心になり、「業務優先」になっていないかを振り返り、「内出血」等の発見時も、ご利用者の行動分析を深める取り組みを続けている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けている。年間目標にも外部研修参加各自2回以上と掲げている。また、資格取得に向けても配慮しており、講習会等に積極的に参加してもらうようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、勉強会や相互訪問活動を行い、交流を通じてサービスの向上に繋がるよう努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階においては特に留意し、入居者様の不安、要望等を伺いながら把握し、スタッフ間でも共有しながら対応に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との関係づくりにおいても同様に出るだけお話しをする機会を設け、状況を把握するよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を行いながら多方面からのアプローチを行い、対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様から家事のアドバイスを頂いたり、一緒に過ごしながら共に生活している関係として、喜怒哀楽を味わい、支えあえる関係づくりに努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけご家族に参加して頂けるような催しを企画し、協力して頂くようにしている。また、お手紙や電話等でもこまかな情報をお伝えし、共に支えていく関係を築いている。		



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、入居者様の習慣、馴染みの方との交流の機会が保たれるよう支援している。	家族と一緒に、親戚の集まりやお墓参りに行かれている。日々の生活では家族等への手紙の投函のお手伝いをしたり、馴染みのお店で化粧品等を購入される方もおられる。馴染みの美容師の方が来て下さり、楽しいひと時を過ごされており、法人内の施設に生活する知人との交流も続けている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係は、日々の御様子を観察しながら把握していくよう努めている。個々の時間も大切にしながら催し等を通し、関わりの時間も確保出来るよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人の別事業所に入居されたケースもあり、少ないながらも経過を伺ったり、法人の催しで一緒したりと支援が出来るだけ途絶えないよう努めている。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で意向を伺い把握に努めている。知り得た情報は記録に残し、共有しながら介護計画に活かしている。	担当職員が中心になり、ご本人や家族から生活歴や要望などを伺っている。毎月の報告は手書きしており、暮らしぶりを家族に報告している。他の職員からの情報も共有し、日々の記録に残している。食事への要望も多く、「～が食べたい」等の願いを叶えるように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される際に御本人の生活歴を御本人、ご家族から伺い、把握した上で接するよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況に合わせる為、状態、現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人の生活歴や身体状況を踏まえ、御本人、ご家族、スタッフ等、関係者と共に話し合いながら現状に即した内容となるよう努めている。	生活歴や身体状況と共に、ご本人のお好きな事(編み物やテレビ番組等)も介護計画に盛り込み、地域での生活も大切に、買い物や「ふれあいサロン」等へ出かける支援も盛り込まれている。3表の日課表も活用し、入浴時の留意点などの個別援助計画を記載している。	今後も心身状況等のアセスメントを追加すると共に、介護保険の目的である「有する能力に応じた自立支援」を大切に、日々の短期目標を具体化していく予定である。リハビリの視点も増やし、更なる維持向上に努めていく予定である。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に御本人が仰った言葉、行ったこと等を記録し、要望、気づきに繋げ、計画の見直しや日々の活動に活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に合わせ出来る限り御本人、ご家族の要望に応えられるような体制づくりを行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族や医療関係者等地域資源を可能な限り把握するよう心掛け豊かな暮らしに繋がられるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人、ご家族の要望に沿う形で医療を受けて頂いている。かかりつけ医とも情報の共有に努めている。	系列病院に24時間相談でき、医師等からアドバイスを頂いている。系列施設の看護師が毎日ホームに来て下さり、ご利用者の健康チェックも行われ、訪問看護師との連携も図られている。受診時は家族に同席して頂く事も多く、医師からの説明を聞いて頂き、不安を少なくするように努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師や協力病院の訪問看護と連携しながら健康管理に努め、必要な受診は迅速に行えるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族や病院関係者との情報交換、相談を随時行い、出来るだけ早期退院出来るよう支援している。また、法人の勉強会等で交流を図っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や家族会で説明し、ケアプランの説明時等に個別にお話しする機会も設けている。その時々状況に合わせて方針の共有を図っている。	医療行為が必要となった場合の“意思確認書”を作成している。「24時間体制の往診がなく、最期は病院(さくら病院)に転院になる事」を入居時に同意して頂いており、特養の申し込みをされている方もおられる。早期発見に努め、状態変化時は主治医との連携に努めると共に、家族への報告も密に行っている。「最期までここで」と願われる方もおられ、誠心誠意のケアが行われている。	看取りの経験がない職員もおられ、医師や看護師からの指示は全職員で共有している。理念にある「③質の良い福祉サービスの維持及び向上を図る為に継続的な改善活動を実施する」事を大切に、今後も特養の看護師からのアドバイスを頂くと共に、外部研修も受講し、早期発見、早期対応等に活かしていく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンスや内部研修を通じ急変時の対応や事故発生時の対応を学び実践に活かしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内の消防訓練に加え、ホーム内においても年2回の訓練を行い緊急時に備えると共に会議を通じ地域との協力体制にも努めている。	同階の屋上が避難場所である。法人全体の訓練とホーム単独の訓練が行われ、ご利用者と家族、地域の方、市の職員も一緒に夜間想定訓練をしている。消防署の方も点検のために毎年来て下さり、アドバイスを頂いている。厨房で飲料水と食料を確保し、自家発電も準備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に寄り添い、目線に合わせた姿勢や優しい静かなトーンの声掛け、プライバシーにも配慮した丁寧な対応を心掛け実践している。	日々の記録や議事録に、ご本人以外の方を記録する際は、個人名での記入を避けるようにしている。言葉遣いにも配慮し、難聴の方への声の大きさも主任等が注意をしている。訪室時にはノックと声掛けを行い、ご本人の許可を得るようにしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせた対応を行い、思いを引き出すよう意識的に働きかけ、出来るだけ自己決定が行えるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に、外出等、スタッフ側の都合を優先することなく可能な限りはご希望に沿う形で実施している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前からの習慣を大事にしながらそれに合わせた対応を心掛けている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好を把握し、誕生日にお好きな物を召し上げて頂いている。準備や片付けは出来る範囲でお願いしている。	朝食と夕食は施設の厨房で作り、嚥下状態に応じ、厨房で「なめらか食」等も作られている。昼食はホームで作り、ご利用者もちらし寿司の盛り付け、モヤシの根取り、味見等をして下さっている。盛り付けにも気を配り、楽しく食事ができる工夫を続けており、職員も一緒に食事をされている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が確保出来るよう出来るだけこまめに摂って頂く等、個別で対応している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るだけ御本人の生活ペースに合わせてながら支援していくと共に義歯の消毒、歯科往診等必要に応じたケアをしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行いながら個々の排泄パターンに合わせて、出来るだけトイレで排泄して頂くよう努めている。	布の下着を着用し、排泄が自立している方も多い。誘導が必要な方にはさりげなく意思確認を行い、個別の誘導を続けている。更なる自立の可能性を見極めており、今後も介護計画の短期目標などに、「排泄目標」などを具体化していく予定である。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関しては個々に合わせた対応を行い、出来るだけ自然排便となるよう食物繊維や乳製品を多く摂ってもらったり、身体を動かして頂く等工夫している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に毎日行い、個々の希望、体調、タイミングをみて時間を決めずに行っている。	入浴時は会話を楽しみ、菖蒲湯や柚子湯等も行われている。好みのシャンプーや湯温も確認し、四季に応じた室温の配慮を続けている。入浴を拒まれる時は、好まれる時間を再確認するなど、無理強いしないようにしている。浴槽が少し深いこともあり、安全に配慮して職員が支えている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせ、就寝、起床と特別時間を決めずに対応している。体力や夜間の様子に応じ午睡の時間も設けている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬、状態を把握し、看護師、医師と連携を図りながら服薬支援を行っている。排便コントロールについてはスタッフ間で検討し調整する場合もある。		



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた役割を設け、生活に少しでも張りをもって頂くよう努めている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	カンファレンス等にて検討を行い、買物や食事等少しでも多く外出の機会をもてるよう努めている。	27年10月は「外気浴の機会を日常的に取り入れる」と言う目標を掲げる等、職員の外出への意識を高めている。季節の花見を楽しむと共に、外食がお好きな方も多く、近くのカフェでワッフルやアイスを食べる機会も作られている。ご主人のお供え物等を買に行かれたり、福岡タワーでの食事や野球観戦も楽しまれた。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人の意向を踏まえ、ご家族とも相談の上対応している。所持している方については買い物の際御自分で管理して頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の投函のお手伝い等している。電話についても掛けたいときに対応している。携帯電話を所持されている方もいらっしゃる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の場として適したものとなるよう努めている。その時々々の写真や季節の花、飾り付け等工夫している。室温管理や清掃に努めている。	ホール全体は広く、心身状況に応じて居室等の移動は職員が付き添っている。廊下の壁には職員手作りの作品や写真を飾り、ご利用者が季節の花を飾られている。ご利用者同士の関係性も配慮し、ソファの置き方等を工夫し、全員が心地よく過ごせるように努めている。リビングの雑誌を一緒に見ながら、外出場所の会話が弾んでいる。	27年7月の職員向けの「環境アンケート」を基に、環境改善を続けている。浴槽の深さもあり、体調に応じて2人介助も行われ、マットの購入や手すりの増設も行われた。今後も安全に入浴できるよう、浴槽内の椅子等の検討を続けると共に、寒さ対策も検討していく予定である。
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々が自由に過ごせたり、気の合う方同士で自由に過ごせるベンチを配置する等工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れたものを持ち込んで頂き、御自宅での生活の延長とと考えて頂くよう入居時から対応している。	ホームは6階であり、海や船が見える居室もある。ご本人の生活歴を大切にしており、ご本人手作りの木彫りの家具や愛用の椅子を置かれている。仏壇も持ち込まれ、毎朝、職員がお茶を準備し、ご本人に供えて頂いている。写真や家具の置き方なども、ご本人の意思を大切にしている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを設置したり、L字のサイドレール等を配置し、出来るだけ自立支援を行うようにしている。打撲の危険が高い方の居場所にはクッション材を使用している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				